

岐阜大学工学部が、平成28年に開講した「機械工学創造演習・知能機械工学演習Ⅲ」。特定分野の理解を深め、企業でのものづくりに対する姿勢を知ることなどを目的に、県内企業の経営者・技術リーダーによる企業の魅力を伝える講義や受け入れ企業で現場の課題解決をテーマとする演習を実施。授業最終日には、関係者約300人の前で演習の成果を報告するプレゼンテーションを行います。演習課題に取り組んだ学生と演習先企業の担当者に話をうかがいました。

CASE 1

秋田屋本店株式会社

演習課題 ウィダーinゼリー生産ラインにおける改善策の検討

こんな会社です

文化元年に秋田杉の材木商として創業。明治20年に養蜂事業を始め、200年を超える歴史を持つメーカー。養蜂器具やミツバチの販売だけでなく、はちみつやローヤルゼリー、プロポリスといった蜂製品の加工・販売など、養蜂全般を手掛ける。今回の演習はゼリー飲料のOEM製造を行う洞戸工場で実施。



参加学生インタビュー

夏休みに参加した企業でのインタビューで設計の研修を受け、設計と関係の深い生産技術について学びたいと思い、演習先に秋田屋本店を選びました。与えられた課題は、ゼリー飲料生産ラインにおける排出シユートの形状改善。製品が充填機の排出シユートから殺菌機に正しい向きで流れず、ライン全体を停止させることもあり、生産性の低下を招いていました。

製造の現場で生産技術を学び、後工程の重要性が実感できました。

岐阜大学工学部4年 機械工学科機械コース 松橋 仁美 さん



私は排出シユートにガイドをつけることで製品の姿勢が安定すると考えて設計しました。ただ、排出シユートの試作品をラインに設置してみたところ、うまく製品が流れません。自分が手作業で成形する工程を考えずに設計したため、設計図通りに試作品を作れなかったのが原因です。この経験から、設計段階で現場の仕様や後工程までを考える大切さが実感できました。工学部の3年生が企業で学ぶ機会は珍しく、演習の話は就職活動の面接で話のタネになっています。卒業後も、授業で学んだことを生かして、ものづくりに携わりたいです。

演習受入企業インタビュー

大胆で自由な発想に感心しました。当社を知ってもらえたのもうれしいです。

学生から提案された改善案は、想像以上に素晴らしいものでした。発想が大胆で自由。「なるほど！」と感心させられるとともに、日頃、私達が先入観にとらわれていることに改めて気付かされました。改善案の中には非常に優れたものがあり、改良を重ねて実際に生産ラインに取り入れていく予定です。学生には、改善案を考えてもらうだけでなく、アルミ板でモデルを試作し、それを生産ラインに実装して動作確認や評価を行うところまで実践してもらいました。一連の作業を通して、アイデアを形にする醍醐味や難しさを体感してもらえたと思います。



演習先担当者 株式会社秋田屋本店 洞戸工場 指導役 武藤 幸彦 さん

今回の演習で特に印象に残っているのは、学生が苦勞しながらも終始楽しそうに取り組んでいたことです。私自身、若い感性を持った学生との交流はとても刺激的で楽しめました。洞戸工場でウィダーinゼリーを生産していることや生産現場の様子など、当社のことを深く知ってもらえたのもうれしいですね。

# 学びのフィールドは 地域×世界

「地域に根ざした国際化」を研究・教育の両面で展開し、その成果を地域社会に還元することを目指す岐阜大学。「地域」や「世界」での学びを通して、世界中どの地域でもその地域課題の解決に取り組むことができるグローバル人材の育成に力を入れています。本特集では、岐阜大学各学部での特徴的な教育プログラムを取り上げ、地域社会の実践的な国際化と成果の地域還元による相互の発展に貢献する岐阜大学の人材育成を紹介します。



工学部：機械工学創造演習・知能機械工学演習Ⅲ

地域 LOCAL

県内企業での実践型演習でものづくりへの理解を深め、活きた課題の解決に取り組む。

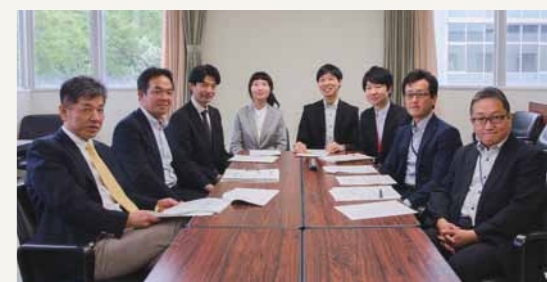
岐阜大学と、県内企業や地域金融機関、岐阜県が一丸となって推進するプロジェクトの一環として、平成28年に開講された工学部の授業「機械工学創造演習・知能機械工学演習Ⅲ」。現場での課題解決を通して創造性を育み、次世代のイノベーションを創出する高度な技術を備えた人材の養成に取り組んでいます。

まずは、もっと県内企業の魅力を知ってもらいたいです。

岐阜県の産業を担う若い人材の育成・定着を目的に立ち上げられた「産学金官連携人材育成・定着プロジェクト」。人材確保が大きな課題となっている県内企業、地域人材の育成を担う岐阜大学、県内企業の成長を支援する地域金融機関、地域の行政を担う岐阜県が一体となり、平成28年度から本格的に事業をスタートしました。プロジェクトの一環として行われた「機械工学創造演習・知能機械工学演習Ⅲ」では、学生に日本を支える優れた技術力を体感し、ものづくりへの興味を深め、県内企業の魅力を知ってもらうことを目的としています。初年度は岐阜大学工学部3年生が県内企業13社で演習を実施。参加した学生からは「ものを一から作る楽しさを感じた」「企業の方々からの期待を実感した」、演習を受け入れた企業の方々からは「学生の新鮮な発想に触れ、社員にも刺激になった」「県内には、面白くて、元気で、温かい企業があることを知ってもらえた」などと感想をいただき、学生と企業の双方に実りの多い演習になりました。

産学金官連携プロジェクト 受け入れ企業リスト

- 株式会社オンダ製作所 様
- アサヒフォージ株式会社 様
- 株式会社イマオコーポレーション 様
- 株式会社秋田屋本店 様
- 株式会社水生活製作所 様
- 株式会社岐阜多田精機 様
- 株式会社ギフ加藤製作所 様
- 株式会社ナベヤ 様
- 株式会社黒田製作所 様
- 株式会社樋口製作所 様
- 日興オートメ株式会社 様
- 鳥羽工業株式会社 様
- 大垣精工株式会社 様





地域 LOCAL  
 応用生物科学部  
 「地域ブランドと地域振興I~III: 飛驒牛倶楽部」

**地域ブランド「飛驒牛」  
 を通して、課題を認識し、  
 アイデアをまとめ、解決  
 策を提案する力を培う。**

私は1年次に友人に誘われてこの授業を受け、以降3年間受講しました。飛驒牛は、霜降りの多い肉質が高く評価されている岐阜のブランド牛です。受講当初に比べると、講義や文献の調査、実習から飛驒牛の知識がかなり広がりました。特に印象的だったのが、1、2年次の現地実習や3年次のインターンです。農家さんからは育て方で牛の性格が変わり、肉質まで変化することをお聞きし、また牛舎の清掃や飼育などの体験

**飛驒牛と岐阜の  
 魅力を再発見し、  
 将来の道も  
 広がりました。**

応用生物科学部が開講している「地域ブランドと地域振興I~III: 飛驒牛倶楽部」。JA全農岐阜の協力の下、集中講義と現地実習を通して、地域ブランドのあり方や振興について学び、地域の課題解決を実現する人材育成を図ります。



岐阜大学応用生物科学部3年  
 応用生命科学課程 食品生命科学コース  
**上田 裕紀** さん

を通して、ブランド価値の維持がどれだけ大変かなどを実感として掴みました。最終的なプレゼンでは、1年次には県内消費量の多さに注目。その強みを生かして、飛驒牛を味わう観光ツアーの増加を提案。また、2年次には霜降り具合を数値にして表し、イメージを高める案を出しました。毎回、準備は大変でしたが、グループ内で役割を分担し、異なる意見をまとめた経験は今後も役立つと実感しています。3年間で飛驒牛の魅力に気付き、岐阜のことが好きになりました。一次加工品の理解が増したので、今後は二次加工品の研究に生かし、将来は食品系の企業に就職したいです。



「飛驒牛倶楽部」外部講師  
 JA全農岐阜  
 畜産部 畜産販売課  
 しかた  
**四方 義人** さん

**学生らしい視点の提案に期待を寄せています。**

私はこの授業に外部講師として協力し、農家や関係機関での現地視察やアテンドもしています。飛驒牛はJA全農岐阜の中でも重要な品目です。肉質や衛生管理に定評がありますが、課題は首都圏での知名度。授業をきっかけに、学生ならではの視点を取り入れ、振興に生かしていきたいです。実際に「他の銘柄牛のウェブサイトより見劣りする」という意見を反映し、改善を施しました。

飛驒牛倶楽部での学びや経験から、将来その生産や地域の産業に関わり、岐阜県をさらに盛り上げたいと思う学生が増えることを待望しています。

**「地域ブランドと地域振興I~III: 飛驒牛倶楽部」**

地域にとけこみ活躍する人材の育成を目指す「大学COC事業」の一環として、平成26年に開講。応用生物科学部の教員の指導の下、JA全農岐阜の職員ら外部講師による講義で、飛驒牛ブランドの立ち上げから現在までの取り組みを学習する。さらに、生産や販売の現場を視察し、関係者と意見交換を行いながら、飼育や販売戦略における課題を認識。この講義の総括として、グループごとに今後の飛驒牛ブランドのあり方や振興策をまとめ、最終日にプレゼンテーションを行う。



「飛驒牛倶楽部」担当教員  
 岐阜大学応用生物科学部  
 生産環境科学課程 応用動物科学コース  
**八代田 真人** 教授

**説得力のあるプレゼンに成長を実感しました。**

学生にはこの授業を通じて、課題解決の方法を学び、地域貢献できる人材になってほしいと願っています。授業の特色の一つである現地実習では、飼育農家やセリ場の見学し、子牛の減少や離農などの課題を理解していきます。また、JA全農岐阜の方や農家、研究者を交えたグループワークを通して、自らの考えを提示しつつ、多様な意見を集約し、創造的な解決策を導く手法も身に付けます。

最後に、各自が飛驒牛ブランドの新たな展開案を発表した際、原価計算をもとにした新商品など、説得力のあるプレゼンに成長の跡が見え、今後に大いに期待を抱きました。

**演習先企業での課題解決事例**

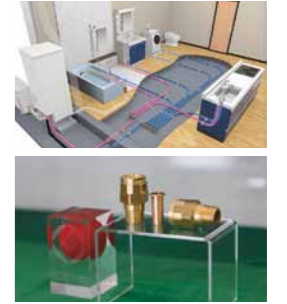
**CASE 2**  
**株式会社オンダ製作所**

演習課題 商品開発 (商品イメージの提案から3Dモデリングまで)

配管技能講習、2D・3D CAD研修、  
 新商品アイデア提案、CADでモデリング、  
 3Dプリンターでのサンプル作成、  
 商品企画提案書の作成

こんな会社です

業界トップクラスのシェアを誇る、継手、バルブ、パイプなど配管資材の総合メーカー。材料・部品・製品の設計・開発までワンストップで行い、全国19カ所の営業拠点より販売。自社企画製品が、2015年度、2016年度グッドデザイン賞を受賞。今回の演習は、関市の本社および工場で実施。



**参加学生インタビュー**

**アイデアの伝え方を  
 考えるようになりま  
 した。**

演習で苦労したのは新商品のアイデア提案です。全く新しい企画を出そうと試みましたが、なかなかいいアイデアが思い浮かびませんでした。アイデア提案の締切が迫った頃、オンダ製作所の方からいただいた「既存の商品をヒントにする」というアドバイスを出し、「片手で切れるキッチンペーパーホルダー」を思い浮かべました。家で料理をする時、キッチンペーパーが片手



岐阜大学工学部4年  
 機械工学科機械コース  
 やすあき  
**服部 晏明** さん

で切れず、不便に感じていたからです。アイデアがまとまり、試作品を3Dプリンターで作ったら、プレゼンの準備。ただ、初めて経験するプレゼン資料の作成が大変でした。「文字ばかりだと読まれないので、写真を大きくすると良い」とアドバイスを受けて、内容を改善。相手にどうやって自分の伝えたいことが伝わるか考えるようになりました。講義最終日の成果発表会は大勢の人から注目を浴びて、とても緊張しました。練習の甲斐あって、アイデアのポイントが伝えられたと思うので、この経験を今後に生かしていきたいです。



**演習受入企業インタビュー**

**学生が意欲的に演習課題に取り組んでくれて、  
 自分にとっても刺激になりました。**

学生には、商品開発の楽しさや難しさを知ってもらいたいと思い、新商品のアイデア提案からプレゼンに至る一連の流れを演習で行いました。「身近にあったらいいもの」というテーマで新商品を考えてもらったところ、多くのアイデア提案があり、前向きな取り組み姿勢に私も刺激を受けました。ただ、アイデアを形にして、その魅力を人に伝える作業には苦労したようです。実際に弊社で使用している提案書を使ってプレゼンをしてもらいましたが、最初はプレゼン用の資料も発表も、ポイントが曖昧なものが多かったです。しかし、本番の成果発表会では新商



演習先担当者  
 株式会社オンダ製作所  
 商品開発本部  
 としひさ  
**永原 稔久** さん

品の強みにポイントを絞ったプレゼンが行われ、短い準備期間の中で学生の成長を感じました。

私達企業にとって、この演習は学生に企業のことを知ってもらえるいい機会です。私自身岐阜大学の卒業生ですが、就職活動をするまで弊社のことを知らなかったのが、今後もこうした取り組みを続けてほしいと思います。

海外臨床実習プログラム：参加者インタビュー



岐阜大学医学部医学科 平成29年卒業  
白川 千穂 さん



海外臨床実習に参加した  
と思ったのは5年次の時  
です。「視野を広げ、新しい  
観点で物事を捉えられるよ  
うになりたい」と思っていた  
上に、海外勤務が多い父か  
らの「学生の間に海外へ出  
てみる」という言葉  
も後押しとなりました。  
実習はインドのロイヤル  
アルフレッドプリンスホスピ  
タルの血液内科で行いまし  
た。オーストラリアは多民族  
国家なので、人種も宗教もさ  
まざまな患者が来院します。  
同一民族の日本と違い、がん  
の告知といった難しい場面  
では患者によって対応を変え  
る必要があります。苦労するこ  
ろだと感じました。また実  
習時には、指導医が深刻な病  
状の患者に対して、手を握っ  
て、目を見て、向かい合っ  
ていたことをよく覚えていま  
す。患者さんを思いやる気持  
ちは万国共通なのだと思っ  
て実感したとともに、医師の

医療現場に携わる者  
として、英語という  
言語の必要性を肌で  
感じました。

熱意に感銘を受けました。  
大変だったのは想像以上  
に言葉の壁があったこと  
です。日本以外の国では医学  
教育は英語で行うことが多  
く、仲良くなった香港の留  
学生に助けを求めたことも  
多々ありました。香港では  
小さい頃から英語を学び、  
みんな当たり前のよう  
に話せます。また臨床現場  
では常に英語で情報がアッ  
プデートされるので、英語が  
できれば簡単に最新情報に  
入れることができます。  
私も情報を収集し、実習の  
予習をするなど努力はしま  
したが、改めて世界と日本  
の医学生の違いを感じ、大  
きな刺激になりました。  
海外臨床実習を経て異文  
化や民族を以前よりも容易  
く受け入れられるようにな  
ったことは自分にとって大き  
な変化でした。また言語が違  
ってもきちんと向き合っ  
て話せば、気持ちを伝えるこ  
とができることも学びまし  
た。同じ志を持つ友人に出  
会えたことはかけがえない財  
産です。この経験を通して、  
これから日本で医師として  
働くにあたり、新しい視点を  
得ることができたと思いま  
す。私にとって、「一生忘れ  
ることのない一カ月です」。



MEDCスタッフ  
教務補佐員  
早川 佳穂 さん

情報源として活躍

さまざまな相談に対する学生たちの窓口  
となり、例えば英語の履歴書作成については  
今福先生へ、など情報入手先のパイプ役を  
行っています。また実習先での不安や心配に  
ついて答えられるように、先輩の学生から  
なるべく多くの情報を得る努力もしています。  
今後も常に情報を更新しながら、学生を支え  
ていきたいと思っています。



「海外臨床実習プログラム」指導教員  
岐阜大学医学教育開発研究センター  
今福 輪太郎 併任講師

学生と同じ目線で相談に

主に海外臨床実習受け入れ先への書類の準備や、英語での履歴  
書の添削やサポートを行っています。学生にとって勉強や留学の  
準備の忙しさに加え、英語で自己PRを表現するのはかなり負担  
だと思います。そこをきちんと手助けできるよう、普段は学生と  
同じ目線で話し、相談しやすい雰囲気づくりを心がけています。  
実習から戻った学生たちのたくましく成長した姿を見ると嬉し  
いですね。今後ももっと多くの学生に参加してもらいたいと思っ  
ています。



医学部：海外臨床実習プログラム / 医療英語ワークショップ

世界  
GLOBAL

医療現場において  
英会話で対応可能な  
グローバル医師を養成。

岐阜大学医学教育開発研究センター  
MEDC Medical Education Development Center

MEDC (医学教育開発研究センター) では全国80の医科大学・医学部の医  
学教育に関する唯一の共同利用拠点として、医学教育セミナーやワー  
クショップを実施。その中の「海外臨床実習プログラム (ECAP=Elective  
Clerkship Abroad Program)」は諸外国の医療機関で実習を行います。

海外臨床実習プログラム  
(ECAP)の申請条件

- TOEFL ITP 550点以上 (ibt 79点以上)
- 医療英語ワークショップへの8割以上の出席
- 一定以上の学業成績
- 英語OSCE受験 (医療面接)



「海外臨床実習プログラム」指導教員  
岐阜大学医学教育開発研究センター  
岐阜大学大学院医学系研究科 医学教育学分野  
さいま 卓也 准教授

MEDCでは、選択臨床  
実習期間において、「海外臨  
床実習プログラム (ECAP  
P)」を推進しています。選  
択臨床実習期間とは、岐阜  
大学での実習を行った後、  
将来専攻したい診療科や研  
修してみたい病院を選び、  
さらに実習を行う期間のこ  
とです。ECAPの実習先  
が海外なので、学生たち  
には、最低限の英語力を身  
につけて実習に臨んで欲しい  
ため、厳しい申請条件を課  
しています。そして課外授  
業「医療英語ワークショップ  
」への8割以上の出席  
や臨床能力試験「英語OS  
CE」での合格を経て、晴  
れて参加できます。  
ECAPについては約  
9年前から試行錯誤しつ  
つ推進してきました。最大の  
目的は医療現場において  
世界の多様な文化に触れ、  
海外の人々と協働する気持  
ちを持つ「グローバルマイ  
ンドセット」を育むこと  
です。昨今はめまぐるしく国  
際化が進み、素早く海外の  
医療情報を取り入れながら  
診療することにも増え  
ています。また日本では検  
査結果を診断に使う比重が  
高いのですが、海外では最  
初に医療面接と身体診察を

じっくりと行い、推論して、  
そこから検査へ進むという  
医療方針の違いもありま  
す。このような状況に対応  
するために、医療英語ワー  
クショップで留学生に模擬  
患者役を頼み、英語での医  
療面接を行い、英語力とコ  
ミュニケーション力を養成  
するので。  
またECAPでは医学  
生1人きりで約1カ月間、  
外国の医療現場に身を置  
くため度胸がつき、より多  
くの医療英語とグローバル  
マインドセットを身につけ  
て帰ってきます。こうした  
成果が先輩から後輩へと  
伝わり、より多くの学生が  
触発されて7年前までは  
10人程度だった参加者がこ  
こ2年で20人以上に増え  
ました。この実習を経て実  
際に海外の医療機関で働  
く卒業生が増えることを  
期待しています。  
今後はより多くの学生が  
参加できるようにeラーニ  
ングやスカイプなどのイン  
ターネットを利用した授業  
を展開したいと思っていま  
す。また医療英語の教材や、  
1年次から英語を用いた授  
業を増やし、さらに英語力  
を高める機会を提供したい  
と考えています。



※医療英語ワークショップ

実践的な医療英語を学べる参加型ワー  
クショップ。課外授業で履修単位にはなら  
ないが、ECAP参加希望者は8割以上の  
出席が必須となる。外国人医師や海外  
での臨床・研究経験を持つ日本人医師を  
学外から招聘し、医療面接やプレゼン  
などのワークショップを英語で行う。全5回。



※英語OSCE (オスキー)

Objective Structured Clinical  
Examinationの略。客観的臨床能力試  
験のこと。医療面接などのブースを10  
分前後で回る実技などで、英語力やコ  
ミュニケーション力などの臨床能力を  
評価する。身体診察やカルテ記載など  
試験内容も多岐にわたる。



▲授業では、英語での自己紹介やプレゼンなど、語学力を高めるための実践的なカリキュラムが組まれています。

地域科学部：国際教養コース

世界  
GLOBAL

## 語学力の向上と異文化理解を促進する国際教養コースを新設。

文部科学省が進める国際化の取り組みの一環として地域科学部に新設された「国際教養コース」。国際社会において求められる幅広い教養と、自文化ならびに異文化への理解力を身につけるため、1年間の留学を必修とし、グローバルな学識を持つ人材育成に取り組んでいます。



「国際教養コース」担当教員

岐阜大学地域科学部地域政策学科  
山本 公德 准教授

平成28年4月に始まった国際教養コースでは、日本人学生については外国語力の向上と同時に、留学を通して異文化への理解を促します。外国人学生については、集中的な学習で日本語や日本文化への理解を深め、グローバルな学識を養うことを目標としています。

大きな特徴のひとつが、1年間の正規プログラムで学ぶ交換留学です。留学先の学術交流協定大学での取得単位を単位として認定し、就職活動などへの影響を考慮し、留学期間を2年生後期から3年生前期に設定。4年間で卒業することが可能です。学内においても留学生と一緒に学ぶ機会や英語の講義を増やし、留学条件となるTOEFLの試験対策なども積極的に展開。TOEFLが40点代から60点代半ばまで上昇した学生もいます。留学先では語学だけでなく、異文化への理解を深めてもらいたいのです。そして将来的には、当コースでの学びを活かし、地域で起こる外国人との文化的摩擦をうまく解消し、緩衝材のような役割を果たせる人材に育ってもらいたいと考えています。



岐阜大学地域科学部  
国際教養コース2年  
保坂 泉 さん

英語力の向上を実感！  
TOEFLの得点も  
20点上がりました！

### 国際教養コースの第一期生として 今年の秋に留学する2名の学生に話をうかがいました

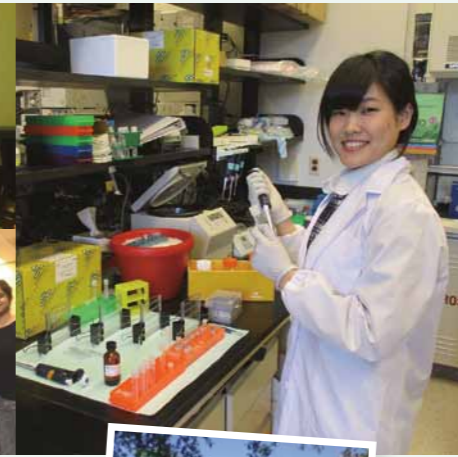
高校時代に語学研修でイギリスを訪れた経験から、大学でもぜひ留学して世界をもっと広く学びたいと考えていました。国際教養コースではプレゼンを数多くこなすため、英語で意見を述べる力が格段に上がったと思います。また、1年生の後期は英語の授業が週6コマと多く、さらに試験対策を通じて苦手を克服できたことでTOEFLの得点も20点ほど伸びました。留学先では初めての一人暮らしを経験します。不安もありますが、さまざまな経験を通じて自分を成長させたいです。

以前から海外留学に興味があり、地域科学部に国際教養コースが新設されるのを知り、岐阜大学への入学を決めました。印象に残っているのは「言語と社会A」の講義です。自己紹介を考えて英語でプレゼンをするなど、高校までの受け身の内容とは違い、主体的な授業が多くて新鮮でした。留学先のオーストラリアは移民が多い国ですから、異文化に触れる機会がたくさんあると思います。自分から学ぶ姿勢を常に心掛け、いろんなものを吸収したいと思っています。

岐阜大学地域科学部  
国際教養コース2年  
松井 美樹 さん



自己紹介を英語で  
プレゼンしたのが  
とても新鮮でした！



バロー・Vドラッグ海外研修奨学金助成事業

世界  
GLOBAL

## 地域企業の後押しを受け、世界最高峰の研究機関に大学院生が留学。



岐阜大学大学院工学研究科 生命工学専攻  
博士前期課程2年  
長瀬 春奈 さん

研修先：アメリカ国立衛生研究所 (NIH) 内国立  
心肺血液研究所 (NHLBI) / アメリカ (12カ月)



岐阜大学基金の新たな奨学金として、平成27年に創設された「バロー・Vドラッグ海外研修奨学金助成事業」。本奨学金を受け、初めて派遣された岐阜大学大学院博士前期課程の学生2名が、それぞれの留学先で大学院での研究をさらに深めるとともに、実践的な語学力やプレゼンテーション能力を磨きました。

もともと私は大学院で、薬になり得る物質を有機合成する研究を行っていました。そうしてできた物質の分析や評価手法を身に付けたいと、企業からの奨学金を受け、世界最高峰の医学・創薬の研究機関、NIHへの留学を決めました。NIHは専門分野の講義や実験技術習得のためのワークショップが充実しています。また、岐阜大学の工学研究科とは部局間協定を締結しているため、大学院を休学する必要がないことも魅力でした。

私が所属したラボは、糖タンパク複合体であるコンドロイチン硫酸プロテオグリカン(CSPG)の機能を解明し、神経損傷の治療に役立てる研究が中心でした。私の課題は、CSPGを半定量的に評価できる実験系を確立すること。専門が異なる上、英語での討論はとても苦労しましたが、最後には国際研究集会でのポスター発表が実現。解明に貢献できたことは感慨深いです。

留学を経て、研究の根底に人の命があることを意識するようになり、目指す道を見つけました。春からは物質評価の研究室へ移り、未知の分野を追求します。



岐阜大学大学院工学研究科  
環境エネルギーシステム専攻  
グローバル環境・エネルギーコース 博士前期課程2年  
紀平 一真 さん

研修先：インペリアルカレッジロンドン (ICL) / イギリス、  
バーデン・ヴェルテンベルグ州立太陽エネルギー・水素  
研究センター (ZSW) / ドイツ (2カ月)



私は大学院で、シリコンの代替としてグラフェンを太陽電池に活用する研究をしていました。グラフェン系物質における精度の高い理論計算を学び、実践的な語学力を修得するため英国ICLへ留学。続いてドイツZSWを訪れ、研究者から、再生可能エネルギーとしての太陽光発電の可能性を聞き、研究の意欲がさらに高まりました。帰国後、留学先で修得した理論計算を活用した研究を論文発表でき、就職先の電力会社でも、電気の人々の生活を支えたという夢ができました。

### 岐阜大学基金 特定事業「バロー・Vドラッグ海外研修奨学金助成事業」

岐阜大学大学院生の海外研修を支援する制度。(株)バローホールディングスと、「Vドラッグ」を展開する中部薬品(株)の寄付により、平成27年に創設。大学院生が海外の大学や研究機関及びこれに準ずる機関において単位習得や専門の研究を行う場合、渡航費、滞在費、授業料などを援助する。海外での研修の機会を増やすことにより学生の資質を高め、国際的な視野に立った人生観を得るとともに、より積極的に勉学に励む人材を育てることを目的とする。